

～デジタル技術を活用し、鳥取市で 充実した生活を送ろう～編



令和6年度第3回地方創生ストリートミーティング 開催レポート



デジタル技術を活用し、様々なライフスタイルで充実した生活を送っている方々に、デジタル技術を活用して生活・仕事をしている視点から、鳥取で生活・仕事をする魅力、または不足している部分など、UIターン促進につながる施策立案に向けて意見交換を行いました。

今回はワーケーション施設として整備されたSANDBOX TOTTORIで開催しました。

■ 開催概要

日 時：2024年9月19日(木) 19:00-20:20

会 場：SANDBOX TOTTORI

参加者：市長、デジタル技術を活用し本市で充実した生活している方々6名、
地域振興課長、地方創生推進室長、市役所若手職員2名

REPORTS

【テーマ1】鳥取市に移住したきっかけ、長所・利点

鳥取で生活することになったきっかけ

- ・勤務先がリモートワークを推奨。コロナ禍でリモートワークの流れが制度的にも強化された。鳥取市出身であることや、祖父母も近くにいることもあり、生まれ育ったところで子育てをしたかった。（Uターン）
- ・自然環境等を踏まえ、いつかは山陰で暮らしたいと思っていた。コロナで様々な働き方が進んで鳥取でのリモートワーク生活を満喫している。（Jターン）
- ・他の土地も検討したが、実家が近く、親のサポートが得られることもあり移住を決めた。（Jターン）
- ・北海道出身。東京に出て結婚し、妻が鳥取市出身のため、鳥取で子供を育てたいということで移住。学習管理システム関係の仕事でリモートワークをしている。（Iターン、Uターン）
- ・映画の撮影で鳥取に来たのがきっかけ。デスク業務はリモートワークが可能と考え、会社をお願いして鳥取でリモートワークをしている。（Iターン）
- ・執筆業。春・夏・秋・冬、季節の変化に富んだところに暮らしたかった。（Iターン）

長所・利点

【自然・食・風土】

- ・東京だと奥多摩や千葉まで車を走らせないと自然に触れ合えないが、鳥取は自然に触れ合える環境が充実している。
- ・自然が豊かなので、子どもを自由に遊ばせることができる。都市部ではそうはいかない。
- ・秋の干し柿も美味しく、モサエビは地元でしか食べられないなど食環境が良い。鳥取はバブルの影響をあまり受けていないこともあり、昔から続く生活が残っている。
- ・鳥取の良いところは、手つかずの部分が残っているところ。
- ・日本の原風景もたくさんある。行ってみて、体験してみて、五感を使い、感じながら生きていける。
- 👤 自然の豊かさはよく言われる。鳥取の良さは表現しづらいところもある。バブルの影響を大きく受けておらず、暮らしや伝統が継承されてきたが、日本全国でそうした場所は少なくなってしまったのかもしれない。

【市街地と空港の距離】

- ・市の中心部から空港まで車で10～15分、鳥取から羽田まで飛行機で1時間と東京との時間的な距離は非常に近い。リモートワークをしつつ、東京のオフィスに行く必要があった場合に短時間で行くことができるのは大きなメリット。
- 👤 東京との時間的な距離は近く、1日5往復ある。政策コンテストで期間限定の措置であり、5往復が継続できるようにするには利用者増が必要。

REPORTS

【家賃の安さ】

- 全国的にみて家賃が安く、都市部と比べて生活のランニングコストが安い。

【災害の少なさ】

- 地震などの大きな災害が起きていない印象。小さい子どもがいる家庭ということもあり、比較的災害が少ないことも移住を決めた理由の一つ。

【車での移動のしやすさ】

- 鳥取の暮らしやすさは、車が一台あればどこでもいけること。倉吉・米子も生活圏であり、足を伸ばせば選択肢が豊富である。

【文化圏の面白さと「ゆるさ」】

- 鳥取は、お金の匂いがしない。経済的に熱を持ちすぎず、みんな穏やかにのびのび暮らしている。自由度が高く、文化的なチャレンジを受け入れる人の優しさがあるまちだと感じる。
- 集中して何かを創るときは人が少ない方が良い。鳥取には発想のヒントになるものがたくさんある。
- 鳥取の良さは抽象的な部分。県立図書館が素晴らしく、また以前は素晴らしい書店もあったが残念ながら閉店してしまった。優れた図書館があり、優れた読み手がこんなにいるとなれば、文化的な水準の高い、そのまちの財産となる。

（深澤市長）

- 👤 鳥取は自然が豊かといわれる。家賃が安く、リーズナブルで、暮らしやすいと思う。
- 👤 鳥取の良さ、鳥取ならではのものは深掘りをしていかないと見えてこない部分がある。地元民が感じる魅力と移住者が感じる魅力がイコールではないところもあるのかもしれない。
- 👤 全国的な地方創生の取り組みが、自治体間競争となり移住者の取り合いのような状況になってしまったことは反省点である。地方創生は人口減少社会でも立ちゆくように、心豊かに暮らしていけるように、地に足をつけたまちづくりを進めることが重要。
- 👤 鳥取の良さや可能性は、文化圏や「ゆるさ」、カルチャーの部分でも魅力的なところがある。鳥取は芸術活動にもふさわしい土地柄ではないかと思う。

【テーマ2】鳥取市で活動するうえで不満、不十分だと思うこと

【子育て】

- 子どもを2人同じ保育園に入所させることができたが、最寄りの保育園に入園できず、車で送迎しないといけない保育園への入園となった。
- 画一的な保育園だけでなく、民間から多様な保育園が出てきて欲しい。
- 👤 できる限り近いところに入園していただきたいと思うが、年度中途の入園など難しいこともあるかもしれない。可能な限り取り組んでいきたい。
- 子どもの遊び場について、晴れている時は砂丘や森、公園などがあり問題ないが、雨の日はイオンやわらべ館など限られた遊び場しかない。雨天時に子どもが遊べる施設があると嬉しい。
- 👤 空港ビルの内で遊ぶ方もおられる。他にもそのような施設はたくさんあるのでPRしていきたい。
- 子どもの医療に関して、医療機関でもう少し患者に目を向けてほしいと思ったことが何度かあった。風邪をひいていたが門前払いされた経験があり、対応の仕方や言い方などが都市部と比較して気になる。
- 👤 病床率や医療機関の距離は人口に対して充実しているエリアであるが、鳥取市と四つの町から成る鳥取東部医療圏において、病床数などそれぞれの医療機関の役割分担が異なっている。改善すべき点については改めてお聞かせいただきたい。

【テーマ3】選んでもらえる鳥取市になるように

- ・伸ばしていったほうが良いこと
- ・改善していったほうが良いこと

【まちづくりのビジョンを明確にすべき】

- ・自然が豊かで子育てが充実しているということは他の自治体でも発信している。鳥取独特の自然やレトロ感を残すのか、都市部のような利便性を求めて人口増加を目指すのか、どちらに舵をきるのかを決めることが必要。
 - ・どの世代に移住して欲しいといった戦略があるのか。全ての世代に向けたものだと中途半端になってしまうのではないか。
 - ・鳥取で育った若者が都市部で大学進学した後、ライフイベントのタイミングで戻ってこられるようなUターン施策だけでなく、Iターン施策も積極的に進めるのか。選択と集中が必要だと思う。
 - ・お金だけで勝負したら予算の都合、他自治体に勝てないこともある。「コンビニエンス」を目指すのか、「ウェルネス」を目指すのかを考える必要がある。
- 👤 鳥取市の人口動態を見ると、20代の進学や就職で市外に出た若者がなかなか戻ってこない。その状況を変えるためにも、まちの魅力を高め、働く場を増やすことが重要である。
- 👤 鳥取市は平成18年にU/Iターン専用窓口を設置し、若い世代の方の移住が増えている。
- 👤 仕事面も考えると移住は一大決心が必要。一定期間だけでも住む、特定の市町村と繋がりを持つといった関係人口の取り組みが全国的に広がっているなどいろいろな形がある。鳥取市は、「コンビニエンス」と「ウェルネス」のどちらも求めている。

【移住者に選ばれるために】

- ・市の中心部から空港が近く、東京との時間的な距離が近いのは大きなメリット。さらに自治体等から飛行機代の支援などができれば移住の可能性も広がる。リモートワークをする若者にとって、空港が近く、必要があれば東京に出社できるのは大きなメリットとなる。
- 👤 飛行機代がもう少し安くなれば利用しやすいが、ANA単独路線であり難しい部分もある。
- ・移住の最低限のラインとして、都市部と同じとまでいかなくても、医療・教育がある程度確保されていて選択肢があり、安心感・身の安全が確保されていることが必要。
- ・移住定住支援窓口職員の親身な対応や、空き家バンクなどの住まいに関する情報提供など、丁寧な支援は移住者にとって心強い。
- ・移住した方が長期にわたり定住するように、例えば住宅ローンで家を購入してもらうような仕組みも必要。

【独特さや多様性を大切に】

- ・鳥取か都市部かという今までのような二者択一だけでなく、週に何回かは自然が豊かなところで過ごし、あとは刺激的なところで過ごすという選択肢もあると思う。一歩進んだ鳥取ならではの組み合わせが出来れば魅力となる。
- ・自治体によっては同性パートナーに対する住民票の記載方法を変えた例もある。予算をかけずに、若い世代や必要とする方々に対して、人権に配慮した施策は魅力となる。
- ・既存の家族だけでなく、同性のカップルやひとり親でも支援が受けられるような幅広い視点が必要。最終的に子供を産み育てることが、まちを存続させることにつながる。家族という概念を「ゆるく」、「独特」にしていくまちづくりをしてほしい。独特の子育てができるまち、面白い環境があるかもしれないという興味で移住してくれる人もいるかもしれない。
- 👤 家族の概念も時代に合わせて変わっている。お互い尊重し、多様な価値観を認めるまちであるべき。近年は価値観がますます多様化しておりそれらを包含できるまちでありたいと考えている。

【市職員に対しての提案】

- ・今日Iターンの方々から独特さを教えてもらえた。Iターン者は少なく独特さに偏りがある場合もある。市役所の職員も他都市に数か月住むことで鳥取の良さに気付くきっかけになる。
- ・地元出身の人ほど地元の魅力が分からなくなる。他都市での生活を通じて「鳥取の独特の良さ」に気付き、それを基に施策を打ち出すことが必要ではないか。
- ・外を知ることによって内のことを語ることができる。もっと外を知ることをした方が良い。

（おわりに）

- 👤 地方自治体が、市民の皆さんにまちの未来を示し続けていくしかないと思う。人口が減っても「住んでよかった」と思えるようなまちにしていきたい。
- 👤 考え方が多様化しており、様々な意見を集約することは難しいからこそ、いろんな世代や分野の方々のお話を伺いたい。